15　「大鏡」　─中古の歴史物語

18年度　日本女子大学

★　次の文章を読んで、設問に答えよ。

　、のほどよりは①とくさむることをぞせさせたまひ　ア　。御賀茂詣の日は、社頭にて三度の御定まりてまゐらするわざなるを、その御時には、・神主もＡ心得て、大かはらけをぞまゐらせしに、三度はさらなることにて、七八度など１召して、にまゐりたまふ道にては、やがてのけざまに、しりの方を御枕にて、不覚にＢおほとのごもりぬ。一の大納言にては、このぞおはしまし　イ　ば、御覧ずるに、夜に入りぬれば、の松の光にとほりて見ゆるに、御のおはしまさねば、Ｃあやしと思し召しけるに、まゐりつかせたまひて、御車かきおろしたれど、②え知らせたまはず。いかにと思へど、御前どももＤえおどろかしまうさで、たださぶらひなめるに、入道殿２おりさせたまへるに、さてあるべきことならの外ながら、高やかに、「やや」と御扇を鳴らしなどせさせたまへど、さらにおどろきたまはねば、近く寄りて、の御の裾を荒らかに引かせたまふ折ぞ、おどろかせたまひて、Ｅさる御用意はならはせたまへれば、御具したまへりける取り出でて、つくろひなどして、おりさせたまひけるに、いささかさりげなくて、清らかにてぞおはしましし。Ｆされば、さばかり酔ひなむ人は、その夜は起きあがるべきかは。

注１　この殿――藤原道隆

注２　かはらけ――酒をつぐ酒器

注３　上の社――上賀茂神社

注４　御堂――藤原道長。「入道殿」も同じ。

注５　御前――行列の先払いの者

注６　轅――牛車の前方に取り付けた二本の棒

注７　笄――髪を整えるための箸状の道具

問１　　ア　・　イ　には、過去の助動詞「き」が入るが、それぞれを文法的に正しく活用させ、解答欄に記入せよ。

ア［　　　　　］　　イ［　　　　　］

問２　傍線部Ａ「心得て」とあるが、禰宜・神主は心得て、何をしたのか。簡潔に答えよ。

［　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　］

問３　傍線部Ｂ「おほとのごもりぬ」・Ｄ「えおどろかしまうさで」を現代語訳せよ。

Ｂ［　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　］

Ｄ［　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　］

問４　傍線部Ｃ「あやしと思し召しけるに」とあるが、道長はどうしてそう思ったのか。もっとも適当なものを、次の項目（１～４）から一つ選べ。

１　たいまつの火が消えかけていたから。

２　たいまつの火がまぶしすぎて、何も見えないから。

３　たいまつの火で人影が揺れて見えたから。

４　たいまつの火で見えるはずの人影が、見えないから。

問５　道長は、車から降りてこない道隆に対して、どのような行動に出たか。次の項目（１～４）について、正しいものには○、誤っているものには×を、それぞれ記入せよ。

１　扇で風を送るなどして懇ろに介抱した。

２　声を出すなど大きな音を立てて起こそうとした。

３　袴を乱暴に引っ張って起こした。

４　櫛などを手渡し、急いで身支度をさせた。

１＝［　　　］　　２＝［　　　］　　３＝［　　　］　　４＝［　　　］

問６　傍線部Ｅ「さる御用意はならはせたまへれば」の現代語訳としてもっとも適当なものを、次の項目（１～４）から一つ選べ。

１　出かける時の準備はつねに心がけていらっしゃるので。

２　酔ってしまったときの取りつくろい方は慣れていらっしゃるので。

３　不意の時の準備は、人から習っていらっしゃるので。

４　失敗したときの取りつくろい方は考えていらっしゃらないので。

◎問７　傍線部Ｆ「されば、さばかり酔ひなむ人は、その夜は起きあがるべきかは」からは、筆者の道隆に対するどのような気持ちがうかがえるか。簡潔に記せ。

［　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　］

【確認問題】

１　波線部１「召して」の意味として適当なものを次から選べ。

ア　お呼びになって

イ　お食べになって

ウ　お飲みになって

エ　着替えになって

２　波線部２「おりさせたまへる」の文法的説明として適当なものを次から選べ。

ア　動詞＋尊敬の助動詞＋尊敬の補助動詞＋完了の助動詞

イ　動詞＋使役の助動詞＋謙譲の補助動詞＋存続の助動詞

ウ　動詞＋尊敬の助動詞＋謙譲の補助動詞＋存続の助動詞

エ　動詞＋使役の助動詞＋尊敬の補助動詞＋完了の助動詞

【補充問題】

３　傍線部①「とくさむること」の解釈として適当なものを次から選べ。

ア　早く酒が冷めたこと

イ　特に酒に酔うこと

ウ　早く目が覚めること

エ　早く酔いから醒めること

４　傍線部②「え知らせたまはず」の解釈として適当なものを次から選べ。

ア　道長殿はおわかりになることができない

イ　道隆殿はおわかりになることができない

ウ　道長殿にお知らせすることができない

エ　道隆殿にお知らせすることができない

【解答】

問１　ア＝し　イ＝しか

問２　Ａ大きなかわらけを用意して、Ｂ道隆が酒を多めに飲めるように配慮した。

評価の基準　Ａ＝５〔単に「かわらけ」だけならば０。〕

　　　　　　Ｂ＝５〔「道隆」が明示できていなければ０。〕

問３　Ｂ＝おやすみになってしまった Ｄ＝お起こし申し上げることができず

問４　４

問５　１＝×　２＝○　３＝○　４＝×

問６　２

問７　Ａ前後不覚に酔っていてもすぐに酔いから醒めて平然としていることへのＢ称賛の気持ち。

評価の基準　Ａ＝８／Ｂ＝２

【確認問題】

１　ウ

２　ア

【補充問題】

３　エ

４　イ

【現代語訳】

　この殿（＝道隆）は、お酔いのわりには早く酔いから醒めることをなさいました。御賀茂詣での日は、（下賀茂神社の）社前で三杯の（お神酒を）御かわらけで決まって差し上げること（が通例）ですが、その（道隆公の）御時には、禰宜や神主も心得て、（普通のものよりも）大きいかわらけを差し上げたところ、三杯は言うまでもないことで、七、八杯などお飲みになって、上賀茂神社に参拝なさる途中（の車中）では、そのまま仰向けに、（車の）後ろのほうを御枕にして、前後不覚におやすみになってしまった。（このとき）第一の大納言としては、この入道殿（＝道長）がいらっしゃいましたところ、（この道隆殿のご様子を）ご覧になると、夜になっていたので、行列の先払いの者が持っているたいまつの光で（お車の中が）透けて見えるのに、透けて見えるはずの（道隆殿の）姿がいらっしゃらないので、（入道殿が）妙なことだとお思いになったところ、（神社に）到着しなさって、御車（の轅）をおろしたけれど、（道隆殿は）おわかりになることができない。どうしようかと思うけれど、先払いの者たちもお起こし申し上げることができず、ひたすら控え並んでいるので、入道殿がお降りなさると、そのままでよいはずのことではないので、轅の外（にいる状態）のままで、声高に、「もしもし」と（声をかけながら）御扇を鳴らすなどなさるけれども、まったくお起きにならないので、近くに寄って、表の御袴の裾を荒々しく引っ張りなさったとき、（道隆殿は）目をお覚ましになって、酔ってしまったときの取りつくろい方は慣れていらっしゃるので、御櫛や笄を揃えていらっしゃったのを取り出して、身づくろいなどして、お降りになったところ、まったく何気ない様子で、おきれいでいらっしゃった。いったい、それほど酔ってしまった人は、その夜は起き上がることができるだろうか（いや、できないであろう）。